

～ 近年のフード事情 ～

この数年、ワンちゃん・ネコちゃんの食事が大きく変わってきました。特にワンちゃんの食事に対する考え方が見直され、各メーカーから新しいタイプのフードや手作り食の素材などが発売されています。

今までのフードは主に炭水化物を主体としたフードがほとんどでしたが、現在では炭水化物を減らし、蛋白質を増やす傾向にあります。この考えのもとになっているのが『犬本来の食事』です。犬は今では雑食ですが祖先は肉食だったという事、また消化の仕組みが人間とは違い、炭水化物や食物繊維の消化が不得意だという事、そして肥満や糖尿病対策が問題となっている事が現在の肉主体の食事へと変わってきた理由です。今までの食事では生きていくのに必要なグルコースのほとんどを炭水化物から得ていましたが、肉主体の食事ではグルコースはアミノ酸から変換されるので、炭水化物の過剰摂取による肥満や糖尿病の防止にもなると考えられています。肉主体の高蛋白食になると心配なのが腎臓への負担が増大する点ですが、最近の学説では、極端に腎機能が低下した場合以外はその心配がないことがわかってきました。このようなことから、『穀類不使用』『低炭水化物』『肉主体の生食』などのフードが生まれてきました。実際に何匹かのワンちゃんが穀物不使用のフードに変えてみると、今まではなかなか痩せる事ができなかったのに見る見る脂肪を落とし筋肉を落とさないという、理想の体形になりました。



また同時に、手作り食も注目されるようになり、手作り感覚のレトルトや冷凍食品、手作り食用の素材なども増えてきました。手作り食にすると、やはり心配なのが食事のバランス。しかし、これは人間の食事同様に難しく考える必要はありません。1週間、2週間、・・・1ヶ月と長い期間をみてバランスが取れてくれば問題ありません。手作り食のポイントは、全体の35%～50%を蛋白質にする事、野菜は消化しやすくするため細かく刻む事、ペットの状態をみながら様々な食材を使用する事（与えてはいけない食材もありますので注意！）、サプリメントを上手に使用する事。加熱することで破壊されてしまうビタミン・ミネラルや酵素などのサプリメントを与え、健康維持に必要な物が十分に含まれた食事を作ることが大切です。最近では納豆菌やケフィア菌などの菌類も注目されています。腸内環境を整えることが病気にさせない体をつくるほか様々な効果が期待できるようです。人間の歯科で「納豆菌が歯周病に効果あり」と発表されました。抗生物質の無い頃にはチフス予防に使用されたり、近年では病原性大腸菌O-157の抑制効果も明らかになっています。もちろんワンちゃん・ネコちゃんにも効果があると予想されます。

このようなフードが注目をあびるようになった理由のひとつに『ワンちゃん達の食べっぷりの良さとイキイキとした目』があります。やはり、今までのフードより肉主体になったために、また手作りのために嗜好性が上がり、とって美味しそうに食べてくれるという点が飼主にとっては何よりも嬉しいことです。またその結果、健康でいられるなら注目しないわけがないでしょう。

うちのコモフードを見直そう！と思っている方、当院にご相談ください。

犬の名前ランキング（アニコム損害保険株式会社調査）

総合ランキング	男の子部門	女の子部門	都道府県別 福岡
1位 チョコ	1位 チョコ	1位 モモ	1位 ソラ
2位 モモ	2位 マロン	2位 チョコ	2位 チョコ
3位 マロン	3位 ソラ	3位 ハナ	3位 モモ
4位 ココ	4位 レオ	4位 ココ	4位 ハナ
5位 ソラ	5位 コタロウ	5位 サクラ	5位 サクラ

待合室の放送しているなかに『動物トリビア』というコーナーがあります。「へえ～」と思うクイズが出されるんですが、このトリビアのクイズを出しているのが「アメリカン・ペット」というところでホームページを持っているので早速見てみました。ホームページではクイズ形式ではありませんが、たくさんの「へえ～」が紹介されていました。これを知ってるからどうだ？って感じの話もありますが、犬好き・猫好きには貴重な話です。お暇な時にちょっとのぞいてみて下さい。

「アメリカン・ペット」 <http://www.amepe.com> ドッグトリビア / キャットトリビア

病気シリーズ

膝蓋骨脱臼

膝蓋骨脱臼とは小型犬に多い病気で膝にある膝蓋骨（膝のおさら）が正常な位置からはずれ、内側または外側に脱臼した状態のことをいいます。内側にはずれることを内方脱臼、外側にはずれることを外方脱臼といいます。発生頻度は小型犬で内方脱臼が多く、ごくまれに大型犬で外方脱臼がみられます。

原因

原因のほとんどは先天的なもので、生まれた時からの骨の形成や靭帯の異常などによって膝蓋骨が脱臼しやすい状態になっています。その他の後天的な原因としては交通事故や転落事故による打撲や骨折等の影響により、二次的に骨の変形が生じた結果として発症する事もあります。

症状

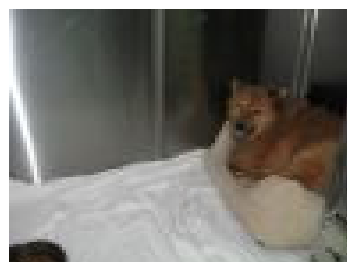
膝蓋骨脱臼はその程度によりグレード から までの4段階に分類されますが、その程度によって症状は様々です。軽度のものではほとんど無症状か時々スキップ様の歩行をする程度ですが、重度になると骨の変形が進行し、跛行や肢の挙上などがみられるようになります。痛みが出ることもありますが、習慣的に脱臼するような場合は痛みがほとんど出ない例も多くあります。

治療

重度の場合は手術が適応になります。多くの場合は軽度であったり症状がみられないので、膝関節の負担を軽減するために体重のコントロールをしたり、床を滑りにくいものにするなどの環境を整えることが必要になります。また関節の保護をするためにサプリメントを使用したり、痛みがある場合は痛み止めを投与します。

わんこ・にゃんこ日記

年末年始、お預かりが多くなる時期です。当院では会員のワンちゃん・ネコちゃんに限ってお預かり（ペットホテル）も行っています。なぜ会員のワンちゃん・ネコちゃんに限るかというと、お預かりする場所は病院内の犬舎になります。病院には様々な病気のコが来院されます。万が一伝染病のコが来院した場合、きちんと予防を行っていないと感染の可能性もあるからです。会員のワンちゃん・ネコちゃんは当院が予防効果やメーカーの信頼性なども考え選んだワクチンやその他予防薬を使用し、しっかりと予防を行ってくれているので安全にお預かりできます。また診察や予防でたびたび来院されるので、今までどんな病気をした事があるか、性格はどうかなど知ることができ、お預かり中のちょっとした変化にも気がつきやすくなるからです。犬舎内でおとなしくしているのが、普段からおとなしいのか具合が悪くておとなしいのか分からないと困ります。そんなことから会員のワンちゃん・ネコちゃんだけに限らせていただいています。お預かり中の様子はというと・・・。



お気に入りのベッド持参でリラックス。ごはんだってちゃんと食べれるよ！

ボク今回は長～いお預かりなので、いつもより大きいお部屋にしてもらったよ。ハウスも入れてもらったしなかなか快適！



今、おやつ時間なので話しかけないで下さい・・・

.....



預けていかれる時、飼主様方は結構心配されますが、ワンちゃん達は意外とヘッチャラのことが多いです。たまに犬舎に入ることが嫌で、扉をかじったりして怪我をしないか心配なコもいますが、こんな時のためにハウストレーニングをしておくといいと思います。また、おさんぼが上手にできないワンちゃんは、事故防止のため必要最低限のお散歩になります。安全なお散歩のトレーニングもしておきましょう。お預かり日数が長くなるとワンちゃん達はやっぱりさびしそうにしています。その反対にあんなに緊張していたネコちゃん達は日数が長くなるにつれて環境にも慣れ、我が家のように生活してくれます。

ネコちゃんはこの状態が多いかなあ・・・。環境の変化に適応しにくいコが多いので慣れるまではこのように隠れていることが多いです。このコは持参されたベッドをひっくり返して中に入りこちらの様子を伺っています。